

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第3号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第3号

平成30年11月30日付防除情報で注意喚起を行いました、依然、発生が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多

### 5 注意報の根拠

- 1) 平成30年11月30日付で病害虫発生予察防除情報第7号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年に比べ多い発生で推移している。
- 2) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は72.8%（前年75.0%、平年50.7%）（図1）、10花当たり虫数は18.1頭（前年7.7頭、平年5.9頭）（図2）、寄生花率は40.9%（前年23.7%、平年18.7%）（図3）で、いずれも平年に比べ多の発生であった。10花当たり虫数と寄生花率については過去10年で最も高くなっている。
- 3) 向こう1か月の気象予報では、晴れの日が多く、気温は平年に比べ高い傾向であると予想されており、ヒラズハナアザミウマの増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方気象台12月13日発表1ヶ月予報）。

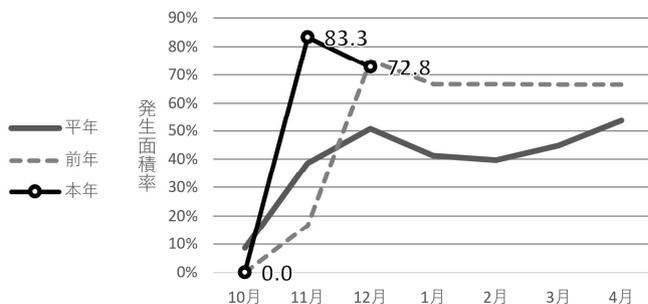


図1 発生面積率の推移

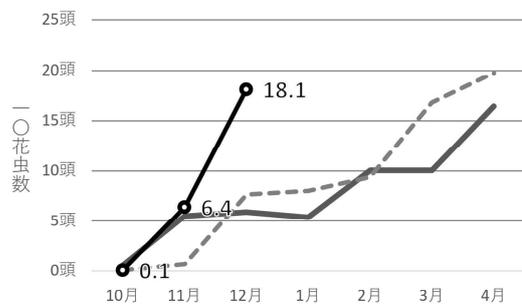


図2 10花当たり虫数の推移

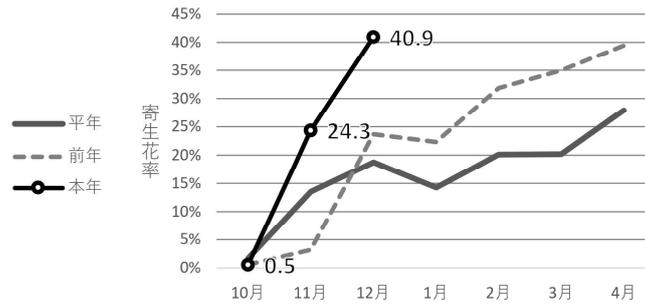


図3 寄生花率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発時は更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤防除は、薬液が花内にしっかり付着するように行う。また、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) ピーマンの花数が減少する時期は防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

## 6 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 （病害虫防除・肥料検査センター） 森下  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp